

初台リハビリテーション病院 第5回 区西南部地域リハビリテーション研究大会 開催報告

3月2日(土)中目黒GTプラザホールにて第5回目となる研究大会をシンポジウム形式で開催いたしました。「最期まで『その人らしく』を支える～人生の最終段階を支える多職種の間わり～」をテーマにシンポジスト4名を迎え、具体的な事例を通しリハビリテーションという切り口で「人生の最終段階を支える」ためにどのようなことが出来るかを発表いただきました。シンポジウム後のディスカッションでは座長の三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック長谷川幹先生のもと会場内で活発な意見交換が行われました。



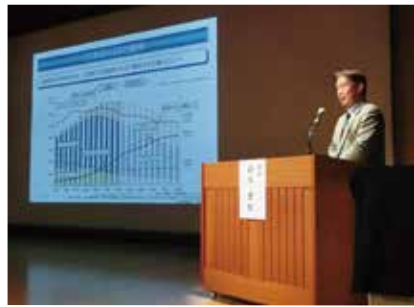
船橋市立リハビリテーション病院 3月21日市民公開講座開催しました

毎年行なっている市民公開講座を本年度も実施しました。今回は【いきいきと暮らそう!!～元気な身体づくりと認知症予防について自分達でできること～】と題して開催しました。参加者全員で体操を行い、和気藹々とした雰囲気の中で日々の生活の中で実践できるという目線で講義をさせていただき、好評でした。今後も地域の皆さまのお役に立てるよう活動をしていきたいと思っておりますので、ご参加よろしくお願い致します。



船橋市立リハビリテーションセンター 第19回 船橋市地域リハビリテーション研究大会 開催

2月9日(土)船橋市市民文化創造館「きららホール」にて第19回船橋市地域リハビリテーション研究大会が開催されました。講師に厚生労働省医務技監 鈴木 康裕氏をお招きし「地域包括ケア時代の地域に求めること」というテーマでご講演いただきました。今大会の参加者からは、「様々な立場からの発表が聞けてよかった」「求められているものに対して、もう一度考える機会になった」との声が多数寄せられ、大盛況でした。



在宅総合ケアセンター元浅草 江戸東京博物館との共同事業として、体験型回想法「昭和を振り返る日」を開催。

昭和の時代に使用していた黒電話や炭火アイロン、手回し蓄音器などを博物館より提供して頂き、実際に触れながら当時の思い出やエピソード、地域によって導入時期が違ったなど利用者さまの様々なお話を伺うことができました。今後も定期的に開催してより多くの方にご参加いただき、思い出の品々に触れながら利用者さまの生活史を振り返る機会を作っていきたいと考えております。



在宅総合ケアセンター成城 外来訓練室レイアウト変更

新年度を迎え、2階外来訓練室のレイアウト変更を行いました! レイアウト変更により、看護師とケアワーカーといった医療従事者同士の連携が取りやすくなったほか、職員が利用者さまの安全を見渡せる配置になっています。また、4月には1階通所リハビリテーションのレイアウト変更も予定しておりますのでご期待ください。これからも利用者さまの安心安全に配慮した環境作りを行ってまいります。



医療法人社団 輝生会 会長 石川 誠

新入職員の皆さん、入社おめでとうございます。リハビリテーション医療というのは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のいわゆるリハ専門職だけではなく、医師、看護師、介護福祉士など、全職種が関わって初めて成立するものだと考えています。そのためにも、輝生会では大きなスタッフルームに、多職種がみんな集まる仕組みを取っています。これまでの長い医療の歴史のなかではリハビリテーションにあまり関わっていなかった職種もあわせて、チーム一体となって取り組むことが必要で、輝生会はそのモデルのような役割を担ってきました。また、患者さまだけを見ればよいということでもありません。輝生会は、東京都の区西南部、区中央部の地域リハ支援センター事業のような、地域に根差した活動を通じて、国の掲げる地域包括ケアの整備推進につなげていく役割も担っています。制度や分野ごとの縦割りの考え方や支え手、受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画していく「地域共生社会」の実現に向けた活動も大切な取り組みのひとつなのです。輝生会の事業の3本柱は、①高品質の回復期リハ病棟 ②在宅総合ケア体制の確立 ③地域リハの推進です。①と②の患者さまへの直接的アプローチと、③の地域社会へのアプローチ、この2点をバランスよく実践する「ツイントラックアプローチ」を、輝生会は確実に実践し広げています。リハビリテーションというものに、多くの患者さまがアクセスできる世の中になってきていますが、患者さまがアクセスした先のリハビリテーションの質が悪ければ意味はありません。我々が頑張って高品質のリハビリテーションを提供し、それを公にしていけば、別の病院も頑張っていくかもしれない。そうして日本の医療界をより良い方向にもっていきたいのです。新入職員の皆さんにも、そうした意識をもち、輝生会の一員として活躍してほしいと願っています。



医療法人社団 輝生会 理事長 水間 正澄

新入職員の皆さん、入社おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。皆さんは、新しく社会人となられた新人の方もいれば、すでに医療人として豊かな経験を積まれている方もいらっしゃると思いますが、新しい職場であることには変わりありません。同期入職の皆さんが、少しでも早く職場に溶け込んでいただき、それぞれの立場から、輝生会の理念の下に患者さま利用者さまのために尽くしていただけることを願っております。医療法人社団輝生会は、石川誠会長がリハビリテーション医療への様々な思いをこめて2002年に設立されました。以来、回復期リハビリテーション病棟や在宅総合ケアセンターでの医療を通して、寝たきりをなくすこと、在宅ケアを充実させること、地域リハビリテーション活動の推進などの課題に精力的に取り組んでまいりました。これらは、現在でも法人の事業の柱であり、更なる質の向上を目指しているところです。このような活動を実践してゆくにはしっかりとしたチーム力が必要です。当法人では、すべての職員がリハビリテーションチームの一員であると考えて人材育成に取り組んでおります。一層強いチームを作り上げて行けるよう、教育研修局をより強力な組織にして皆さんの指導に専心してまいります。リハビリテーション・マインドをもって、仲間を大切に作る心も忘れず、質の高いリハビリテーション医療を提供する大きな力となっていただけることを期待しております。



季刊情報誌「輝NET」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <http://www.kiseikai-reha.com>

- 初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <http://www.hatsudai-reha.or.jp>
- 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <http://www.funabashi-reha.com>
- 船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <http://www.funabashi-rehacen.com>
- 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <http://www.motoasakusa-reha.com>
- 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <http://www.seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 contact@kiseikai-reha.com

輝生会の基本理念と方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「人間の尊厳」の保持 ■ 「主体性・自己決定権」の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「地域リハビリテーション」の推進 ■ 「ノーマライゼーション」の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「情報」の開示
輝生会における患者さまの権利	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人権を尊重される権利 ■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最善の医療を受ける権利 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自らの意思で選択・決定する権利 ■ プライバシーの保護を求める権利

2019年4月1日 新入職員133名を迎えました



9時に始まった入社式。医療法人社団輝生会では、2019年4月1日に、医師4名、看護師43名、ケアワーカー4名、理学療法士37名、作業療法士29名、言語聴覚士9名、ソーシャルワーカー2名、栄養士4名、事務1名、計133名の新採用者を迎えました。新入職員へ、石川誠会長から輝生会が誇るチームアプローチをこれから一緒に実践することへのエール、水間正澄理事長からすべての職種をリハビリテーション専門職として迎えていることを伝える挨拶がありました。その後、水間理事長から新入職員ひとりひとりに辞令交付があり、新入職員を代表して、船橋市立リハビリテーション病院所属となる作業療法士より、本日から輝生会の一員になる決意と、患者さま・利用者さまの再び輝く生活に貢献することへの期待が伝わる挨拶がありました。

5拠点と本部の紹介

初台リハビリテーション病院・菅原病院長、船橋市立リハビリテーション病院・梅津病院長、在宅総合ケアセンター元浅草・斉木センター長、在宅総合ケアセンター成城・堀見センター長、船橋市リハビリセンター・石原センター長、本部・堅田事務局長より、輝生会が運営する5つの拠点と本部の紹介がありました。所属拠点および拠点のある地域に対する熱い思いが凝縮されて伝わってくる内容でした。

新入職員代表挨拶

輝生会での2ヶ月の実習期間で見た、徹底した他職種との連携は私の理想の環境であり、スタッフの方々が、優しくも厳しく患者さまに寄り添う姿は、私の理想の作業療法士の姿となりました。この充実した環境で経験を積み重ねていくことで、患者さまの思いに寄り添える作業療法士に近づくことが出来ると考えております。そして患者さまやご家族さま、共に働くスタッフの方々から信頼される存在になるよう、人としても成長していきたいです。今日の入社式を迎え、改めて社会人としての自覚が強まり、少しでも早く輝生会の一員として貢献していきたいという決意を強めることが出来ました。私たち新入職員一同、この入社式での新鮮な気持ちを忘れず、日々精進して参ります。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

石川誠会長からのメッセージ

石川会長の講演は、リハビリテーションの歴史をわかりやすく伝え、リハビリテーションマインドを感じさせる内容です。なぜ輝生会が設立されたか、理念とその意味を職員に伝えます。新入職員のアンケートには、「リハビリテーションに対する考えが変わった」「多職種との連携が非常に重要であると強く思った」などが記載されており、講義をとおして新入職員が、さっそく、大きな価値のある変化をとげたことがわかりました。



水間正澄理事長からのメッセージ

水間理事長の講演は、これから始まる業務すべてが輝生会の理念に基づいていることを職員に示し、また、輝生会の事業の3本柱である回復期リハビリテーション、在宅総合ケア、地域包括ケアの理解を促進する内容です。新入職員のアンケートには、「基本理念を覚えるだけでなく、今後の業務の中で常に念頭に置いて精進したい」「輝生会が、いかに患者さまに寄り添って対応しているかがわかった」などの記載があり、研修の目的に沿って受講できていることが伝わってくる内容でした。

セコム医療システム提携病院として 布施会長からのメッセージ

入社式では、毎年、セコム株式会社常務取締役・セコム医療システム株式会社取締役会長の布施達朗様から講演をいただいています。今年も、セコムグループの概要とともに、セコムの考え方と輝生会の考え方の類似、チャレンジする精神についてのお言葉をいただきました。

新採用者研修スタート

今年度は、4月1日入社後から4月8日が新採用者研修です。輝生会では、4つの目的で新採用者研修を準備しています。目的は①チームアプローチとリハビリテーションマインドを体感すること、②急性期から生活期までのリハビリテーションの流れを大まかに理解すること、③自職種以外の職種に対して大まかに理解すること、④職場配置前に知っておくべきことを理解し今後の習得につなげることで、です。

研修は、6日間、39コマで構成されています。新入職員が輝生会職員として患者さまの前に立つ準備となるよう、輝生会職員に必要な知識、技術、態度を、講義や技術体験を通して学ぶように構成されています。



研修テキスト 輝生会の「キ」

この研修のために、輝生会の教育研修局では、研修テキスト『輝生会の「キ」』を毎年編集しています。

第1編：法人の概要、第2編：輝生会のシステムを理解するための概論、第3編：法人職員として遵守すべき事項、第4編：リハビリテーションやケア場面での技術、の4編で構成されています。『輝生会の「キ」』というタイトルは、輝生会の「輝」、希望の「希」、歓喜の「喜」、基本の「基」… 色々な意味を込めてつけました。輝生会が大切にしている理念やマインド、チームアプローチ、原則等が詰まっており、職員が迷ったり悩んだりした時に立ち戻るテキストとなるよう願いが込められています。

